

## 「わが国石油・天然ガス開発の現状と課題」の公表について

石油鉱業連盟（以下「当連盟」）は、2022年版「わが国石油・天然ガス開発の現状と課題」（以下、現状と課題）を発売しましたので、お知らせいたします。

現状と課題は、当連盟の年報にあたり、石油・天然ガス開発業界を取り巻く現状を紹介するとともに、当業界の動向を分析し、石油・天然ガスの安定供給確保とカーボンニュートラル社会実現への貢献を同時に進める当業界の課題と対応を各方面に広く周知することを目的として発売しているものです。

### <要点>

- ① 長期に渡るエネルギー移行期において、引き続き重要なエネルギー資源である石油・天然ガスの需要は、今後必ずしも減少するとは限らない。
- ② 上流投資は依然低迷しており、特に今後の需要増加を見込むシナリオが多く存在する天然ガスやLNGは、現在の投資状況が継続した場合、将来的に供給不足を引き起こす可能性がある。
- ③ 会員企業の上流投資額は、既存案件の生産量維持・拡大のための投資を中心に増加傾向にあり、探鉱投資、資産買収投資の増加も認められ、国内ではリスクテイクの動きが見え始めている。
- ④ 会員企業の今後の上流投資方針として、①ガスシフト、②コアエリア（重点国）重視の2つの方針が認められた。
- ⑤ 我が国の2021年度の石油・天然ガス自主開発比率は40.1%に達し、そのうち会員企業が占める割合は73%である。また、会員企業は今後需給タイト化が懸念されているLNGの供給力強化に向けた取り組みも推進している。
- ⑥ 会員企業のカーボンニュートラル事業への投資額は増加傾向を示し、その取り組みは加速している。重点分野としては、①CCS、②再生可能エネルギー、③ブルー水素・アンモニアの順に挙げられた。

以上